

メッセージアウトライン

ローマ4：1～12「アブラハムの場合」

[1-2]「それでは、肉による私たちの父祖アブラハムの場合は、どうでしょうか。もしアブラハムが行いによって義と認められたのなら、彼は誇ることができます。しかし、神の御前ではそうではありません。」

多くのユダヤ人はアブラハムは良い行いをしたから神の前に義と認められたと信じていた。しかし、神の御前ではそうではないとパウロは断言する。

[3]「聖書は何と言っていますか。『それでアブラハムは神を信じた。それが彼の義とみなされた』とあります。」これは創世記15:6のことばの引用。

アブラハムは主なる神が約束してくださった祝福、彼から跡継ぎが生まれること、子孫が星の数のように増えるということ、これらをそのとおりに信じた。それで神はアブラハムを義と認められたのである。

[4]「働く者の場合に、その報酬は恵みでなくて、当然支払うべきものとみなされます。」アブラハムは何か良い行いをしたとか、神の戒めを守った等の結果、神の前に義と認められたのなら、彼は誇ることができる。それは働く者に対する報酬のような関係になる。しかし事実はそうではない。

[5]「何の働きもない者が、不敬虔な者を義と認めてくださる方を信じるなら、その信仰が義とみなされるのです。」アブラハムは行いではなく、不敬虔な者を義と認めてくださる神を信じる、その信仰が義とみなされた。これは新約時代のキリストに対する信仰と同様のものである。

[6-8]「ダビデもまた、行いとは別の道で神によって義と認められる人の幸いを、こう言っています。『不法を赦され、罪をおおわれた人たちは、幸いである。主が罪を認めない人は、幸いである。』」これは詩篇32:1～2の引用。

殺人と姦淫の罪を犯したダビデはその罪を行いではつぐなえなかった。しかし、彼は行いとは別の道、悔い改めと信仰によってその赦しを得ることができたのである。

[9-10]「それでは、この幸いは、割礼のある者にだけ与えられるのでしょうか。それとも、割礼のない者にも与えられるのでしょうか。私たちは、『アブラハムには、その信仰が義とみなされた』と言っていますが、どのようにして、その信仰が義とみなされたのでしょうか。割礼を受けてからでしょうか。また割礼を受けていない時にでしょうか。割礼を受けてからではなく、割礼を受けていないときにです。」

アブラハムが信仰によって義とされた出来事は創世記15章に、割礼を受けたことは17章に書かれている。それゆえ彼が割礼を受けるはるか以前に、すでに信仰によって義とされ神から祝福を与えられていたことがわかる。

[11-12]割礼は罪を赦されるための免罪符ではない。アブラハムは「割礼を受けていないとき信仰によって義と認められたことの証印として、割礼というしるしを受けた」のである。彼が信仰によって義とされたのは、割礼のある者も割礼のない者も、ただ信仰をもって神を信じるすべての者の父となるためであった。